

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000309		
法人名	医療法人 常念会		
事業所名	グループホームきのみ 櫛		
所在地	愛知県豊橋市石巻本町字狭間10-8		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが役割を持って1日1日を充実して過ごしていただけるようスタッフ全員で試行錯誤しながら日々の支援に努めています。  
敷地内に作った庭を利用し、気候の良い時にはティータイムやランチなどをして、季節を感じながら過ごしていただいています。また、庭に畑を作って季節の野菜を入居者様とスタッフが一緒に育てています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392000309-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2392000309-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人では、以前よりグループホームの運営が行われていたこともあり、関連ホームでの経験を活かした、職員の意見やアイデア等が採り入れられている。ホームは、平屋の構造で、ユニット間を行き来する事ができ、ゆったりとした空間が確保されている他、手入れがなされた広い庭がつけられており、ホームの特徴にもなっている。その一方で、関連ホームと同じ取り組みも行われており、複数の医療機関と連携して、利用者の状態等に合わせた医療面での支援を行う取り組みが行われている。また、日常生活では、習字が得意な方がホームで継続したり、食事作りが得意な方が職員と一緒に食事作りを行う等、日常的にその人らしく活動的な生活が実現できるように取り組んでいる。その際には、ユニット毎に毎週のカンファレンスが実施されており、利用者の意向等の把握と実現につなげている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年3月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念を掲示して職員全員で共有し、実践するよう努めている。	ホーム開設時にホーム独自の理念をつくっており、利用者がホームで穏やかな生活を送ることができることを目指した内容となっている。また、理念を事務室に掲示しており、職員間の浸透にも取り組んでいる。	開設時から、管理者をはじめ職員が入れ替わっていることもあるため、理念の振り返りを行いながら、具体的なホームや職員の目標等の取り組みにつながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーへ買い物に行ったり、町内会に入り回覧板を回したり、町内の行事には積極的に参加するようにし、入居者様が地域との交流が持てるように支援している。	ホーム開設以来、地域の方との関係を徐々につくっており、廃品回収への協力や地域の祭事への参加にもつながっている。また、定期的なボランティアの方の訪問も得られており、相互の交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて認知症について理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議を通じてホームの取り組み等の報告をしている。会議の場で、ご家族様や自治会長様等から意見や要望、地域行事の情報等をいただき、サービス向上につなげている。	会議には複数の地域の方の出席が得られていることもあり、会議を通じて地域の方との情報交換にもつながっている。また、資料で細かくホームの状況を報告しており、ホームへの理解を深めてもらっている。	家族の参加について、次年度からは人数を増やしていきたい意向でもある。家族に案内を行いながら、出席者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の報告や事故発生時の報告、相談等、行政との連携を図っている。	運営推進会議に関する報告等を市の担当部署に持参しながら、定期的な情報交換の機会としている。市の講習会等の際には、職員が出席するようにしており、情報交換にもつなげている。また、次年度からは、介護相談員の訪問も予定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	可能な限り行動の制限は行わないように心がけているが、玄関出入口の施錠は行っている。	身体拘束を行わない方針で支援に取り組んでおり、ユニットのドアが施錠されているが、ユニット間は行き来ができる構造である。また、関連事業所との専門の委員会が組織されており、職員研修等が実施されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	接し方や言葉遣いなどは会議の場等で注意喚起している。勉強会などはこれから積極的に機会を作っていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度そのものを知らないスタッフもいると思われる。外部研修会への参加や施設内での勉強会等で学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を用いてできる限り丁寧な説明を心がけている。説明後にわかりにくいところや疑問などを伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	全てのご家族様に参加いただいているわけではないが、運営推進会議にて意見や要望をいただいている。また、家族会の開催などスタッフ、入居者様、ご家族様が交流を図れる機会を設けている。	関連事業所やホームの行事には、家族にも案内を行っており、家族との交流の機会をつくっている。ホームで利用者の小遣いを預かっているため、家族に定期的に精算に来てもらうように取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議などで意見交換をしているが、反映できていないこともある。	毎月のユニット合同の会議を行っており、職員間の話し合いを行いながら、管理者を通じて、現場の意見等が法人の会議等にもあげられ、反映に取り組んでいる。また、関連事業所との各種委員会があり、職員の意識向上にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々にやりがいを持って業務にあたってくれているように感じる。永年勤続表彰や旅行補助金の支給等、向上心を持てるような配慮がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での定期的な勉強会や外部研修会への参加、資格取得のための支援制度等がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	愛知県認知症グループホーム連絡協議会へ加入しており、輪投げ大会を行ったり、施設同士でイベントに参加し合ったりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で話を聞く等して安心の確保に努めているが、まだまだ足りないことが多いと感じる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	要望や困っていることを伺ってはいるが、やはり足りないことが多いと感じる。もっとお互いに相談を密に取り合える関係づくりに努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要なサービスを模索し、提案などもさせていただいている。なるべく柔軟な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出勤時や退勤時等に気軽に声をかけていたり、冗談を言い合えるような関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	なにかあれば相談させていただき、支援方法などを一緒に考え、本人様を共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や知人の面会時には居室でゆっくりと話をさせていただく等の配慮をしている。また、手紙でのやり取りの支援等で、関係が途切れないよう努めている。	利用者の入居前からの友人や利用者の関係の方がホームに訪問しており、馴染みの関係維持に取り組んでいる。また、家族との外出の機会もつくられており、時には、墓参りや法事等で出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立してしまう方がないように、人間関係や個々の性格を把握し、利用者様同士が声を掛け合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現在退居先等のサポートは行っているが、その後のサポートはできていない。退居後も気軽に訪ねて来ていただけるような関係づくりに努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の訴えや希望を伺い、できるだけ希望にそえるよう検討している。	職員間で、居室担当も割り当てており、職員が把握した利用者の意向等は、ユニット毎で毎週行われているカンファレンスの場でも話し合われている。また、利用者に関する申し送りノートも用意され、日常的な情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様に話を伺ったり、本人様に好きなことなど伺う、昔の話を聞くなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	現状や変化についてカンファレンスや申し送りを通じて職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様がより良く暮らしていけるようにカンファレンスを基に介護計画の作成に努めているが、モニタリング方法については現在検討を行っている。	介護計画の見直しについては、1年になっている方もいるが、現状、毎週のカンファレンスの時間がつくられていることで、定期的なチェックにもつながっている。また、モニタリングについては、担当者会議と合わせて、3か月毎に行っている。	介護計画の期間を明確にしなが見直しの期間を短くする取り組みや、見直しの際には家族との面談の機会をつくる等、次年度に向けた、より良い取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子を記録に残し、変化があった時にはケアの方法について話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	できる限りニーズに応えられるようにしていきたいが、現状は既存のサービスのみの提供となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事への参加、ボランティアの受け入れを行っている。また、近くのスーパーへ買い物に行ったり、喫茶店へコーヒーを飲みに行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医が月に一回来て下さり健康管理をしてくれている。また、ご家族の希望により、もともとのかかりつけ医を受診している方もいる。	ホームの母体は医療機関であるが、他の医療機関とも連携しており、利用者の状態等に合わせた訪問診療等の対応が行われている。また、ホームには常勤の看護職員が勤務しており、利用者の日常的な健康チェックや情報提供等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設に看護師が常駐しており、何か変化があれば看護師へ報告し、受診等の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の病院との情報交換は行っているが、病院関係者との関係づくりといったところは今後の課題である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に意向を伺っており、可能な限り終末期ケアに対応していきたいと思っているが、どのようにケアにあたっていかはまだ議論する必要がある。	ホームでの利用者の終末期に向けた取り組みについては、前向きに考えており、関連ホームでは看取りの支援も行われている。関連に老健も開設されているため、段階に応じた話し合いを重ねながら、利用者に合わせて生活場所の提供に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内で定期的に勉強会を行い、心肺蘇生の手順やAEDの使い方について学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練を行い、災害時に慌てず避難誘導が行えるよう実践力を身につけている。	年2回の避難訓練の際には、利用者も参加して行われており、夜間を想定した訓練も実施されている。また、ソーラー発電による非常用電源の確保も行われている。なお、地域の方との協力体制の構築やホームでの備蓄品は、今後のテーマでもある。	地域の方との関係が良好でもあるため、継続的に交流しながら、今後の相互の協力関係につながることを期待したい。また、法人とも連携し、必要な備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりの性格を理解し、尊厳を損なわないような対応を心がけている。	管理者より、利用者一人ひとりに合わせた「個別ケア」を行うように伝えられており、気になった際には、その都度注意を促すように取り組んでいる。接遇面に関しては、法人の「接遇規程」があり、職員が身に付けるように研修等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のなかで本人の希望や思いを表していただけるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れの中で、体調や気分に合わせて、できる限り自由に生活できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの準備を入居者様とスタッフで一緒に考えるなどして、その方らしいコーディネートをしていただいている。また、月に1回美容師の方に来ていただき、自分好みにカットしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の嗜好の把握に努めている。また、入居者様に食事づくりに参加してもらうことにより、楽しみや役割、達成感等を感じていただけるような支援に努めている。	ホームでは、手作りで提供する日とおかず類の配達で提供する日を分けており、ホームでの調理の際には、利用者もできることに参加している。おやつ作りや季節の行事食等の取り組みも行われている。また、外食を楽しむ機会もつくられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録し、その方に合った量の提供に努めている。また、水分摂取量の少ない方には、個別に表を作成し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の声かけや、月に1回歯科衛生士さんに来所していただき口腔内の衛生状態を確認していただき、ケアの指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、その方の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。	24時間でのチェックを行っており、チェック表や申し送りを通じて情報を共有し、日中はトイレでの排泄に取り組んでいる。また、日常的に乳酸菌飲料をとり入れており、適切な排泄につなげる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日体操を行い適度な運動を心がけている。また、乳酸菌飲料や水分摂取を促すなど便秘予防に努めている。それでも便秘になってしまう方には、医師、看護師と相談し、薬にて排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	可能な限り毎日入浴を行っているが、入浴の時間は安全に配慮し、昼過ぎ～夕方までとしている。その時間の中で個々に入浴を楽しんでいただけるよう、入浴剤の使用や冬至のゆず湯等工夫を行っている。	入浴に関しては毎日準備を行っており、毎日の入浴も可能な体制をつくっている他、入浴剤や季節に合わせた入浴も行われている。なお、お湯については、シャワーで入れる構造になっている為、利用者毎にお湯を足し、温かく入るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりが気持ちよく眠れるように室温の調節を行っている。フロア消灯時間は21時としているが、居室にてTVを観たり本を読む等、入床時間については自由にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の飲んでいる薬剤情報をカルテに綴じ、いつでも確認できるようになっている。副作用等については、服薬後の状態を記録し、変化があればすぐに施設看護師、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ADLに合わせ希望を取り入れた役割を担っていただいている。また、日々のコミュニケーションから趣味や嗜好を伺い、レクリエーション等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1人ひとりすべての希望に沿うことはできないが、買い物やドライブ、外食、喫茶店へ出かける等外出支援に努めている。	法人の方針もあり、季節に良い時期には積極的に外出の機会をつくり、感染症の恐れのある時期は人のいる場所への外出を控えるようにしているが、広い庭の散歩等は行われている。季節により、公園に出かけたり、外食の機会もつくりられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には施設で管理しているが、自己にて財布を所持されている方もおり、能力に応じて買い物時に自己にて支払っていただく等の支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取りつぎや、希望に応じて手紙でのやりとりの支援等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りつけをする等、明るい環境づくりを心がけている。また、季節、天候に合わせて室内の温度や湿度を調節している。	リビングの窓が大きく、外から見える構造であり、天井が高く、採光に優れていることも合わせた、全体的に開放的な雰囲気である。また、リビングや通路の壁には、利用者の作品が飾られたり、季節毎の飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事時の席の並びを気の合う入居者様同士で語らえるよう工夫している。また、TVの前にソファを設置しくつろいでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様、本人様と相談の上、馴染みのもの、使い慣れたものを持ってきていただくなどし、安心できる空間づくりをしていただいている。	居室にはベッドと収納スペースが確保されているが、利用者の希望等にも合わせて、家具やテレビをはじめ、文机を持ち込んで、居室で過ごしている方もいる。また、利用者により、居室にカーペットを敷いて、過ごしやすい環境づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全を考慮し廊下や浴室等に手すりを設置している。また、トイレや居室の場所がわかりやすいよう工夫している。		